



学校だより

3月号

令和5年2月28日

横浜市立南小学校

校長 薄田 秀明

「春はそこまで」

がっこうちゆう うすだ ひであき
学校長 薄田 秀明

かんだん さ おお がつ こうてい さくら め ふく ひ ざ いちにいちにち あか
寒暖の差の大きい2月でしたが、校庭の桜の芽も膨らんできました。日差しも一日一日と明るさを増し、春は、もうすぐそこです。

さて、冬を越して、次の年の春に花や葉になる芽を「冬芽」といいます。

ふゆめ ばんしゅう らくようご おも しら なつ
冬芽は晩秋、落葉後につくられるのでは・・とと思っていましたが、調べてみるとそうではなく、夏からその準備が始まるのだそうです。桜においては、初夏の6月から、もう冬の備えが始まっていることがわかりました。

ふゆめ けいじょう さくら ふゆめ じょう かわ つつ
冬芽にもいくつかの形状があり、桜の冬芽は、うろこ状のかたい皮、鱗片(りんぺん)に包まれています。また、コブシやモクレンのように毛に覆われているものもあります。さらに、ねばつく粘液に覆われているもの(トチノキなど)や葉の柄の中に包まれているもの(プラタナスなど)もあるようです。

ふゆめ み かわ ふわふわの毛は、冬の寒さや乾燥から身を守るためのものですが、冬芽をつけた植物は、けってただ寒さにじっと耐えているのではなく、ゆっくりではあっても着々と春に向けた準備を進めています。

さくら はな うつく さ いちど は おお ふゆ さむ こ てん
桜の花が美しく咲くためには、「一度、葉を落とすこと」「冬の寒さを越すこと」の2点があるそうです。冬の寒さは、ただ耐えるものではなく、必要なもの。春になって一気に花や葉を広げるための大切な準備期間でもあるのです。

れいわ ねんど のこ つき こんねんどいちねん ふ かえ じねんど お たいせつ じゆんび
令和4年度も残りひと月となりました。今年度一年を振り返り、次年度に向けての大切な準備期間としていこう、全職員総力をあげて、教育活動を展開していきます。地域・保護者と一体となった学校づくりへの思いを大切に、歩みを続けていきたいと思ひます。

ねんかん しえん きょうりよく りかい かんしゃもう あ
1年間、たくさんのご支援とご協力、ご理解をいただいたことに感謝申し上げます。

れいわ ねんど ねが
ありがとうございました。令和5年度もよろしくお願ひいたします。